

2024年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年4月9日

上場会社名 株式会社U-NEXT HOLDINGS 上場取引所 東  
 コード番号 9418 URL <https://unext-hd.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長CEO (氏名) 宇野 康秀  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員CFO (氏名) 西本 翔 (TEL) 03-6823-7015  
 四半期報告書提出予定日 2024年4月10日 配当支払開始予定日 2024年5月27日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年8月期第2四半期の連結業績 (2023年9月1日~2024年2月29日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年8月期第2四半期	152,249	13.8	15,813	65.7	15,323	69.3	8,727	76.0
2023年8月期第2四半期	133,732	17.3	9,544	7.9	9,050	7.3	4,958	12.5

(注) 包括利益2024年8月期第2四半期 9,137百万円(83.5%) 2023年8月期第2四半期 4,980百万円(12.3%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益		EBITDA		調整後EPS	
	円	銭	円	銭	百万円	%	円	銭
2024年8月期第2四半期	145.17		—		20,665	46.2	171.32	57.5
2023年8月期第2四半期	82.64		82.60		14,131	7.9	108.80	10.7

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2024年8月期第2四半期	209,921	86,157	36.4%
2023年8月期	200,524	77,707	34.1%

(参考) 自己資本 2024年8月期第2四半期 76,452百万円 2023年8月期 68,451百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年8月期	—	10.00	—	11.50	21.50
2024年8月期	—	16.00	—	—	—
2024年8月期(予想)	—	—	—	16.00	32.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2024年8月期の連結業績予想 (2023年9月1日~2024年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円
通期	316,000	14.3	28,500	32.2	27,500	34.9	14,700	34.1	244.50

	EBITDA		調整後EPS	
	百万円	%	円	銭
通期	39,000	24.5	296.89	26.0

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細につきましては、添付資料P. 12 「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年8月期2Q	60,125,111株	2023年8月期	60,096,611株
------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2024年8月期2Q	74株	2023年8月期	74株
------------	-----	----------	-----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2024年8月期2Q	60,117,611株	2023年8月期2Q	59,992,416株
------------	-------------	------------	-------------

(5) 各種経営指標の算式

・ EBITDA : 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

※ 減価償却費、のれん償却費はC/F計算書の金額を使用しております。

・ 調整後EPS : 調整後当期純利益 (注) / 期中平均株式数

(注) 親会社株主に帰属する当期純利益 + のれん償却費

※ 四半期においては、「当期」を「四半期」に読み替えて計算しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (1) 経営成績に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足資料の入手方法について)

2024年8月期第2四半期 決算概況資料は、本日 (2024年4月9日)、当社ホームページで開示するほか、TDnetにも公表しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(セグメント情報等)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは「未来を今に近づける“ソーシャルDX”カンパニー」をパーパスとして定めております。これは、「あるべき未来」の実現を阻むさまざまな課題をデジタルトランスフォーメーション（DX）によって解決し、「未来」を「現在」に変えていこうという私たちの姿勢と決意を示しております。更に様々な社会課題を解決していくことが我々の新たな事業機会であると捉え、自社の成長につなげていくことを基本的な経営方針としております。

このような方針のもと、当社グループにおいては事業セグメントを以下の5つに分類するとともに、それぞれのセグメントにおいてその実現に向けた取り組みを行っております。

当社グループの事業セグメントは、個人向け映像配信サービスを提供する「コンテンツ配信事業」、業務店や施設向けに店舗DXサービス、音楽配信サービスや店舗向け集客支援サービスを提供する「店舗サービス事業」、オフィス向けネットワーク、セキュリティサービスの提供やインターネットサービス等の代理販売を行う「通信事業」、医療機関やホテルを中心に、自動精算機やフロントの管理システムを提供する「業務用システム事業」、業務店や商業施設向けに高圧、低圧電力を提供する「エネルギー事業」であります。

また、当社グループは、主軸事業である店舗サービスの提供先である業務店を始め、ホテル・病院・ゴルフ場や中小オフィスといったBtoB市場や映像配信、通信サービスをはじめとするBtoC市場などの様々な顧客が当社グループの最大の資産であると考えております。

当第2四半期連結累計期間においては、引き続き経済社会活動は順調に回復し、制約のない個人活動は様々な方面におよび、訪日外国人はコロナ禍以前より増加するなど、業務店の営業や施設の稼働も回復してきております。

一方、令和6年能登半島地震による影響、物価の高騰や深刻な人手不足、更に、働き方改革関連法によって2024年4月1日以降、「自動車運転の業務」の時間外労働時間が制限されることにより想定される諸問題、いわゆる2024年問題に起因する様々な影響への対応等、当社顧客を取り巻く事業環境は一層不透明な状況となっております。

このような状況下、当社グループでは様々な事業活動を通して社会のニーズや課題を一気通貫で対応し、業務店やサービス利用者の方々をサポートするとともに、個人ユーザーに対して、人々の自由な時間を最高なものとするために、誰もが使いやすいサービスを開発し、更に幅広いジャンルのコンテンツを提供し続けるための取り組みを行ってまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高152,249百万円(前年同四半期比13.8%増)、営業利益15,813百万円(前年同四半期比65.7%増)、経常利益15,323百万円(前年同四半期比69.3%増)、また、親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、8,727百万円(前年同四半期比76.0%増)となりました。

当社グループの各セグメント別の売上高（セグメント間の内部売上高又は振替高を含む。）及び営業利益は以下のとおりであります。

なお、当社は、多くの人に信頼され期待される企業ブランドを目指し、2024年4月1日付で株式会社U-NEXT HOLDINGSへ商号変更、新コーポレートスローガンを「NEXT for U」としております。

また、第1四半期連結会計期間から一部報告セグメントを変更しております。変更の内容については、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (セグメント情報)」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

#### <コンテンツ配信事業>

コンテンツ配信事業は、連結子会社の㈱U-NEXTが運営しており、映像配信サービス『U-NEXT』の提供・販売を行っております。

『U-NEXT』では、豊富な見放題作品を用意しており、2024年3月時点で映画やドラマなどの動画作品はレンタルも含めて36万本以上、漫画や書籍などの電子書籍は101万冊以上、雑誌は190誌以上をそろえ、1つのアプリで「観る」「読む」をシームレスに楽しめる、ジャンルを超えたエンタメ体験をお届けしています。

当第2四半期連結累計期間においては、経済社会活動の正常化により、外出機会の増加、規制緩和によるライブやコンサート等のリアルイベントが活況となってきた「巣ごもり」需要が減少するにつれ、映像配信サービスは消費者による選択と集中が行われてきております。また、為替相場は落ち着きを取り戻しつつも引き続き円安基調でありコンテンツの調達コストに一定の影響を与えております。

このような状況下において、『U-NEXT』は、米Paramount Global Content Distributionとのライセンス契約を強化し多数の制作スタジオが提供する人気のコンテンツの配信をはじめ、TBS、テレビ東京の放送中ドラマやバラエティ、ラ・リーガなどの欧州サッカー、国内外の格闘技、ゴルフツアーなどスポーツコンテンツ、ライブ配信、電子書籍とラインアップの充実化を図っております。

更に、今般ユニバーサルミュージック合同会社と包括的な配信契約を締結し、同社所属アーティストのミュージックビデオの配信を開始しております。『U-NEXT』は、以前より音楽ライブを提供するプラットフォームとしてリアル開催との共存を進めており、現在では5,000本以上のミュージックビデオを配信するなど、音楽ジャンルも強化しており、有料会員数は2024年2月末日時点で420万人を越え、その後も順調に会員数を伸ばしております。

その結果、コンテンツ配信事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は52,567百万円(前年同四半期比39.7%増)、営業利益は4,373百万円(前年同四半期比37.0%増)となりました。

#### <店舗サービス事業>

店舗サービス事業は、連結子会社の㈱USEN、キャンシステム㈱、㈱USEN Media、㈱USEN FB Innovation、㈱USENテクノサービス、USEN-NEXT Design㈱、㈱ユーズミュージック、WannaEat㈱、㈱USEN TRUSTが運営しており、音楽配信・店舗DXサービスを始めとする店舗ソリューションの提供・販売・施工、飲食店向け集客支援、フードライセンスシェアリングサービス、音楽著作権の管理・開発等を行っております。

音楽配信サービスは、全国の業務店、チェーン店や個人のお客様に、最適なインフラを経由し、専用の受信端末機を通じて、音楽・情報等を提供しております。

また、店舗DXサービスは、POSレジ『USENレジ』、キャッシュレス決済『USENPAY』、飲食店向けの集客支援サービス、Wi-Fi、IPカメラ、デジタルサイネージなどのIoTサービス、家賃保証サービス、損害保険サービスなど、店舗運営に必要なソリューションを提供しております。

また、㈱USEN Mediaは自社グルメサイトとして『ヒトサラ』及び訪日外国人向け『SAVOR JAPAN』を展開、『食ベログ』の取り扱いも含めた飲食店向け集客支援サービスを提供しており、WannaEat㈱はフードライセンスシェアリングサービスを行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、㈱USENでは、「お店の未来を創造する」をミッションに掲げ、引き続き店舗運営に必要な店舗DXをトータルサポートすることに注力し、顧客の課題解決に向けた取り組みを推し進めております。2023年11月には、BGMに留まらない“音と映像が一体化した来店客参加型エンタメサービス”を備える『USEN MUSIC Entertainment』の販売を開始しました。

また、店舗DXサービスの一環として配膳・運搬ロボットの活用を提案しておりますが、2024年1月にSHENZHEN PUDU TECHNOLOGY CO.,LTDより、日本企業として唯一㈱USENが「Best Partner of the year (ベストパートナー賞) 2023」「Excellent Service Performance Partner (最優秀サービスパートナー賞) 2023」を受賞いたしました。配膳・運搬ロボット販売実績や導入後のアフターサービスについて評価いただいております。

その結果、店舗サービス事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は33,384百万円(前年同四半期比9.0%増)、営業利益は5,167百万円(前年同四半期比9.2%増)となりました。

#### <通信事業>

通信事業は、連結子会社の㈱USEN NETWORKS、㈱U-NEXT、㈱USEN ICT Solutions、㈱USEN Smart Works、㈱USEN-NEXT LIVING PARTNERS、㈱TACT、㈱U-MX、㈱Next Innovation、Y.U-mobile㈱が運営しております。

法人向けには、主に㈱USEN ICT Solutionsが、「USEN GATE02」ブランドでサービスを提供しており、ネットワーク、セキュリティ、クラウドサービスを総合的に提案できる強みを活かし、ICTソリューションの「マルチサービスベンダー」としてICT環境構築の提案・販売を行っております。

また、㈱USEN Smart Worksでは、従業員の働き方をサポートするため、様々なクラウドサービス（SaaSサービス）を取りそろえて企業に提供しており、導入後のきめ細やかな対応にも留意いたしております。

業務店向けには、主に㈱USEN NETWORKSが自社で提供する光回線「USEN光plus」、ISP「USEN NET」や次世代IP電話サービスなど、お客様のニーズに合わせて様々なサービスの提供を行っております。

個人向けには、主にY.U-mobile㈱がMVNOサービス『y.u mobile』の提供を行っており、シンプルな料金プランによりサービス提供開始以降お客様に好評をいただいております。

当第2四半期連結累計期間においては、法人向けサービス、回線取次や自社光回線サービスが引き続き堅調に推移いたしました。

㈱USEN NETWORKSでは、自社で提供する法人向け光回線『USEN光plus』の新規獲得が引き続き安定的に増加しており、ワンショット型の手数料獲得モデルからランニング収益獲得モデルへのシフトが図れております。また、プロeスポーツチームと連携し、オンラインゲームやeスポーツ観戦に不可欠な高速で低遅延の安定した光回線サービスの提供を開始しております。

その結果、通信事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は31,026百万円(前年同四半期比12.6%増)、営業利益は3,588百万円(前年同四半期比20.8%増)となりました。

#### <業務用システム事業>

業務用システム事業は、連結子会社の㈱アルメックスが行っております。

㈱アルメックスは「テクノホスピタリティ（Technology×Hospitality）を世界へ」をミッションに、最新のテクノロジーを駆使した製品やサービスによって、お客様とその先にいるエンドユーザーの方々へ「究極のホスピタリティ」を提供することを目指しており、ビジネスホテル・シティホテル、レジャーホテル、総合病院やクリニック、ゴルフ場等向けに、自動精算機、ホテル管理システム、受付機・案内表示機等の開発・製造・販売・メンテナンスを行っております。また、飲食店向けには、オーダー端末やオペレーティングシステムの販売等も行っております。

当第2四半期連結累計期間においては、2024年7月に新紙幣が発行開始されることを受けて、新紙幣に対応した自動精算機等の機器への入れ替え及び新規導入は引き続き堅調に推移し、売上は大きく伸びました。

ホテルにおける自動精算機の導入に際しては、グループ企業の㈱USEN-NEXTフィナンシャルのベンダーリース商品『USEN-NEXTリース』の利用も併せて提案することで顧客に対して多様な導入方法を提供するとともに、グループのシナジーを活用してグループ全体の利益向上を図っております。病院・クリニックにおいては、人手不足や働き方改革から十分な受付窓口スタッフの配置が難しい状況にあることから、次世代型多機能受付機『Sma-pa TERMINAL』とオンライン資格確認対応顔認証付カードリーダー『Sma-paマイナタッチ』との連携を開始いたしました。受付と健康保険証の確認を一体で行うことが可能となることで、窓口業務の負担軽減に寄与しております。

その結果、業務用システム事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は12,726百万円(前年同四半期比35.9%増)、営業利益は2,900百万円(前年同四半期比128.3%増)となりました。

## <エネルギー事業>

エネルギー事業は、連結子会社の(株)U-POWER、(株)USENが運営しており、『U-POWER』『USENでんき』『USENGAS』を提供しております。

(株)U-POWERでは、企業のESG経営・SDGs対応を支援するためグリーンエネルギー比率が異なる3プランを提供し、店舗・施設で消費するエネルギーのグリーン化を推進しております。

(株)USENは東京電力グループとの業務提携による業務店向けの低圧電力、商業施設向けの高圧電力、更に都市ガスサービスの取次販売、省エネルギー施策提案などのエネルギー・コンサルティング・サービスを提供しています。

当第2四半期連結累計期間においては、経済社会活動は活発となり、顧客先店舗・商業施設等の電気消費量も回復しました。12月以降暖冬傾向が続き、電源調達コストは低下基調にある一方、大手電力会社では、新たな料金メニュー(標準メニュー)の見直しが行われ、規制料金値上げが認可されるなど、マーケットの変化が続いております。

2月には金融庁が東京証券取引所プライムに上場する企業を対象に温暖化ガス排出量の開示や脱炭素への取り組みを促すことを検討している、との報道がなされるなど、再生可能エネルギーの需要が益々高まることが想定されております。

(株)U-POWERでは、以前より企業向けに実質再生可能エネルギーの高圧・低圧電力の販売を行っており、加えて2023年11月1日からは家庭向けの実質再生可能エネルギー電力プラン「GREENホーム」を開始しました。

引き続き実質再生可能エネルギーの販売を強化し、今後も日本国内の再生可能エネルギーの普及に貢献し、持続可能な社会の実現に向けて社会的責任を果たしてまいります。

その結果、エネルギー事業の当第2四半期連結累計期間における売上高は24,815百万円(前年同四半期比18.1%減)、営業利益は3,494百万円(前年同四半期比227.0%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産・負債及び純資産の状況

#### (資産)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ9,397百万円増加し、209,921百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が686百万円増加したこと、受取手形及び売掛金が464百万円増加したこと、棚卸資産が1,226百万円増加したこと、前払費用が8,294百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて10,157百万円増加し、131,382百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産が211百万円増加したこと、無形固定資産が955百万円減少したこと、投資その他の資産が15百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べて759百万円減少し、78,539百万円となりました。

#### (負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて2,742百万円増加し、58,270百万円となりました。

固定負債は、長期借入金が1,500百万円減少したこと、退職給付に係る負債が32百万円減少したこと等により、前連結会計年度末に比べて1,795百万円減少し、65,493百万円となりました。

#### (純資産)

純資産は、利益剰余金が8,036百万円増加したこと等により、前連結会計年度末に比べて8,450百万円増加し、86,157百万円となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、52,818百万円となり、前連結会計年度末と比べて686百万円増加しました。その主な要因は次のとおりです。

### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動による資金の収入は7,436百万円（前年同四半期は591百万円の支出）となりました。その主な要因は、税金等調整前四半期純利益を15,112百万円、減価償却費を3,279百万円、のれん償却額を1,572百万円計上したことや、棚卸資産が1,226百万円増加したこと、未払金が1,698百万円減少したこと、前払費用が8,279百万円増加したこと、法人税等の支払により2,395百万円減少したこと等によるものであります。

### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の投資活動による資金の支出は4,483百万円（前年同四半期は4,836百万円の支出）となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得により資金が2,598百万円減少したこと、無形固定資産の取得により資金が1,685百万円減少したこと等によるものであります。

### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間の財務活動による資金の支出は2,266百万円（前年同四半期は1,726百万円の収入）となりました。その主な要因は、長期借入金の返済により資金が1,530百万円減少したこと、配当金の支払いにより資金が691百万円減少したこと等によるものであります。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第2四半期の経営成績等を踏まえ、2023年10月12日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想を修正しております。

詳細につきましては、本日（2024年4月9日）公表の「通期業績予想の上方修正に関するお知らせ」をご参照ください。なお、本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	52,132	52,818
受取手形及び売掛金	31,989	32,453
棚卸資産	9,708	10,934
前払費用	24,364	32,659
その他	4,017	3,519
貸倒引当金	△987	△1,003
流動資産合計	121,225	131,382
固定資産		
有形固定資産	18,419	18,630
無形固定資産		
のれん	42,591	41,065
その他	6,083	6,654
無形固定資産合計	48,675	47,719
投資その他の資産		
その他	17,258	17,242
貸倒引当金	△5,054	△5,053
投資その他の資産合計	12,204	12,188
固定資産合計	79,298	78,539
資産合計	200,524	209,921
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	24,457	24,421
電子記録債務	2,009	2,233
1年内返済予定の長期借入金	3,000	3,000
未払法人税等	2,460	5,976
その他の引当金	191	304
その他	23,408	22,334
流動負債合計	55,527	58,270
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	50,970	49,470
設備関連補修引当金	104	89
退職給付に係る負債	2,340	2,308
その他	3,874	3,625
固定負債合計	67,289	65,493
負債合計	122,817	123,763

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年2月29日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	97	99
資本剰余金	29,784	29,786
利益剰余金	38,138	46,174
自己株式	△0	△0
株主資本合計	68,020	76,060
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	99	59
退職給付に係る調整累計額	331	331
その他の包括利益累計額合計	431	391
非支配株主持分	9,255	9,705
純資産合計	77,707	86,157
負債純資産合計	200,524	209,921

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
売上高	133,732	152,249
売上原価	89,065	94,445
売上総利益	44,667	57,803
販売費及び一般管理費	35,122	41,989
営業利益	9,544	15,813
営業外収益		
違約金収入	21	36
その他	114	73
営業外収益合計	135	110
営業外費用		
支払利息	354	242
為替差損	66	146
その他	209	210
営業外費用合計	630	600
経常利益	9,050	15,323
特別利益		
投資有価証券売却益	0	165
特別利益合計	0	165
特別損失		
固定資産除却損	405	326
その他	41	49
特別損失合計	447	376
税金等調整前四半期純利益	8,602	15,112
法人税等	3,645	5,935
四半期純利益	4,957	9,177
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	449
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,958	8,727

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
四半期純利益	4,957	9,177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4	△39
退職給付に係る調整額	18	△0
その他の包括利益合計	22	△39
四半期包括利益	4,980	9,137
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,980	8,687
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	449

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	8,602	15,112
減価償却費	3,017	3,279
のれん償却額	1,569	1,572
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	131	16
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	2	△32
受取利息及び受取配当金	△7	△8
支払利息	354	242
固定資産除却損	405	326
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,240	△463
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△2,026	△1,226
前払費用の増減額 (△は増加)	△3,813	△8,279
仕入債務の増減額 (△は減少)	720	△104
電子記録債務の増減額 (△は減少)	284	292
未払金の増減額 (△は減少)	△935	△1,698
その他	△646	1,037
小計	4,418	10,066
利息及び配当金の受取額	7	8
利息の支払額	△354	△242
法人税等の支払額	△4,663	△2,395
営業活動によるキャッシュ・フロー	△591	7,436
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△2,214	△2,598
無形固定資産の取得による支出	△1,049	△1,685
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,243	—
その他	△328	△200
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,836	△4,483
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	3,000	—
長期借入金の返済による支出	△3,950	△1,530
社債の発行による収入	10,000	—
自己株式の取得による支出	△6,367	—
配当金の支払額	△901	△691
その他	△54	△44
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,726	△2,266
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,702	686
現金及び現金同等物の期首残高	26,381	52,132
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,679	52,818

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 2
	コンテン ツ配信 事業	店舗サ ービス 事業	通信 事業	業務用 システム 事業	エネル ギー 事業	計		
売上高								
一時点で移転される財	3,831	7,483	8,924	6,039	561	26,839	23	26,863
一定の期間にわたり移転される財	33,646	22,846	17,340	3,296	29,721	106,850	18	106,869
顧客との契約から生じる収益	37,477	30,330	26,264	9,336	30,282	133,690	41	133,732
外部顧客への売上高	37,477	30,330	26,264	9,336	30,282	133,690	41	133,732
セグメント間の内部売上高又は振替高	162	300	1,281	30	6	1,780	△1,780	—
計	37,639	30,630	27,545	9,366	30,288	135,471	△1,738	133,732
セグメント利益	3,193	4,730	2,969	1,270	1,068	13,232	△3,687	9,544

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,687百万円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年9月1日 至 2024年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期 連結 損益 計算書 計上額 (注) 2
	コンテ ンツ配 信事 業	店舗サ ービス 事業	通信 事業	業務用 システ ム事 業	エネ ルギ ー事 業	計		
売上高								
一時点で移転される財	5,657	8,433	9,902	9,190	25	33,209	3	33,213
一定の期間にわたり移転される財	46,788	24,601	19,342	3,515	24,762	119,008	26	119,035
顧客との契約から生じる収益	52,445	33,035	29,244	12,705	24,787	152,218	30	152,249
外部顧客への売上高	52,445	33,035	29,244	12,705	24,787	152,218	30	152,249
セグメント間の内部売上高又は振替高	122	349	1,781	21	27	2,302	△2,302	—
計	52,567	33,384	31,026	12,726	24,815	154,520	△2,271	152,249
セグメント利益	4,373	5,167	3,588	2,900	3,494	19,523	△3,709	15,813

(注) 1. セグメント利益の調整額△3,709百万円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの変更)

第1四半期連結会計期間より、業績管理区分を見直しており、それに伴い報告セグメントの見直しを行っております。「コンテンツ配信事業」に含まれていた(株)TACTの業績を「通信事業」に含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第2四半期連結累計期間において用いた報告セグメントに基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。